医療の質測定　定義書

更新日：2024 年 9 月 13 日

基本情報

指標番号
0653

名称
精神科入院症例のうち、抗精神病薬の退院処方が単剤または 2 剤である割合

分母
主に精神疾患の治療のために入院した症例のうち、退院処方に抗精神病薬が含まれる症例数

分子
分母のうち、退院時処方に抗精神病薬の退院処方が単剤または 2 剤である症例数

指標群
精神科

意義
抗精神病薬は統合失調症、気分障害、せん妄等の治療薬である。統合失調症薬物治療ガイドラインでは原則単剤、うつ病学会の双極性障害診療ガイドラインでは抗精神病薬含め向精神薬 3 剤以上では可能な限り減らす、かかりつけ医のためのＢＰＳＤに対応する向精神薬使用ガイドラインでは抗精神病薬を 2 剤以上使わないように推奨されている。また、高齢者の安全な薬物療法ガイドラインでは定型抗精神病薬の使用はできるだけ控え、非定型抗精神病薬は必要最小限の使用にとどめるよう記載がある。

向精神薬の過量処方や過量処方による副作用に対する安全性指標（プロセス指標）診療報酬（非定形抗精神病薬加算１）において、2 剤以下の処方にインセンティブを設けている。

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義
1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、主に精神科疾患の治療のために入院した症例。最も医療資源を投入した病名の ICD-10 コードが F$である症例

ICD-10 コード	病名
F$	精神および行動の障害

3. このうち、退院処方に抗精神病薬（注射薬を除く）が処方された症例。以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。 退院時処方の判定：　2010 年度～2015 年度：F ファイルもしくは EF ファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」　2016 年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12 桁の数値）の 1 桁目「退院時処方区分」が「1」

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1171001	クロルプロマジン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1171005	クロルプロマジンフェノールフタリン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○

京都大学
©1996-2024　京都大学医療経済学分野

更新日：2024 年 9 月 13 日

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1172004	ペルフェナジンフェンジゾ酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172005	プロペリシアジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172006	ペルフェナジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172007	ペルフェナジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172008	トリフロペラジンマレイン酸塩	○	○	○					
1172009	フルフェナジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172010	プロクロルペラジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172013	ペルフェナジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172014	レボメプロマジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179006	ピパンペロン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179011	オキシペルチン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179015	スピペロン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179016	スルピリド	○	○	○	○	○	○	○	○
1179020	ハロペリドール	○	○	○	○	○	○	○	○
1179022	ピモジド	○	○	○	○	○	○		
1179024	ゾテピン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179026	チミペロン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179028	ブロムペリドール	○	○	○	○	○	○	○	○
1179029	カルピプラミン塩酸塩水和物	○	○						
1179030	クロカプラミン塩酸塩水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
1179031	カルピプラミンマレイン酸塩	○	○	○					
1179032	スルトプリド塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179035	モサプラミン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179036	ネモナプリド	○	○	○	○	○	○	○	○
1179038	リスペリドン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179042	クエチアピンフマル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179043	ペロスピロン塩酸塩水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
1179044	オランザピン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179045	アリピプラゾール	○	○	○	○	○	○	○	○
1179048	ブロナンセリン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179049	クロザピン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179053	パリペリドン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179056	アセナピンマレイン酸塩				○	○	○	○	○
1179058	ブレクスピプラゾール					○	○	○	○
1179061	ルラシドン塩酸塩						○	○	○
1179100	クロルプロマジン・プロメタジン	○	○	○	○				
1179101	クロルプロマジン・プロメタジン	○	○	○	○				
1190004	チアプリド塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2329009	スルピリド	○	○	○	○	○	○	○	○

4. このうち退院先が不明、転院の症例は除外する。2010 年度～2013 年度　退院先「0　不明、4　転院」を除外する。2014 年度以降　退院先「4　他の病院・診療所への転院」を除外する。
5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

京都大学
©1996-2024　京都大学医療経済学分野

分子の定義

1. 退院時に処方された抗精神病薬の薬剤種数（成分名でカウント）が 2 種類以下の症例　上に示された退院時処方として、退院時処方された薬剤の成分名が２種類以下

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 薬価基準コードに対する成分名は厚労省ホームページより取得
http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp120305-01.html

参考資料

参考値

1. オーストラリア（ACHS）では平均値で 86.4 日本の処方実態調査では、2009 年データで 2 剤以下の抗精神病薬処方割合が 91.5

参考資料

1. Australian Council on Healthcare Standards (ACHS).Australasian Clinical Indicator Report2003 – 2010 12th Edition Mental Health Inpatient, version 6 Clinical Indicators http://www.achs.org.au/media/3871/MentalHealthInpatient_www.pdf（2013 年 1 月 4 日アクセス可能）
2. 三島和夫,片寄泰子,榎本みのり,他.診療報酬データを用いた向精神薬処方に関する実態調査研究.平成 22 年度厚生労働省科学研究費補助金　特別研究事業　向精神病薬の処方実態に関する国内外の比較研究分担研究方向書.2010 年. http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001tjq1.html（2013 年 1 月 4 日アクセス可能）
3. 厚生労働省.過量服薬への取り組み-薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて 2010 年 www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/dl/torimatome_5.pdf（2013 年 1 月 4 日アクセス可能）
4. 薬剤の分類について下記参照（改訂に際しては、同著者、日本精神神経学会/日本精神神経薬理学会による最新情報を随時参照のこと） Toshiya Inada et al. Psychotropic dose equivalence in Japan. Psychiatry Clin Neurosci. 2015; 69(8):440-7. Doi: 10.1111/pcn.12275.
5. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015　20170808_01.pdf (jpn-geriat-soc.or.jp)　（2024 年 6 月 11 日アクセス可能）
6. 日本うつ病学会診療ガイドライン　双極性障害（双極症）2023　2023 年 3 月 1 日作成

京都大学
©1996-2024　京都大学医療経済学分野

https://www.secretariat.ne.jp/jsmd/iinkai/katsudou/data/guideline_sokyoku2023.pdf　（2024 年 6 月 11 日アクセス可能）

7. かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン（第 2 版）平成 27 年
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000140619.pdf（2024 年 6 月 11 日アクセス可能）

8. 日本神経精神薬理学会日本臨床精神神経薬理学会　統合失調症薬物治療ガイドライン 2022
2022 年 5 月 20 日公開　2023 年 8 月 17 日改訂 https://www.jsnp-org.jp/csrinfo/img/togo_guideline2022_0817.pdf（2024 年 6 月 11 日アクセス可能）

京都大学
©1996-2024　京都大学医療経済学分野